

四万十市ゼロカーボンシティ宣言

～2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す～

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、過去には考えられないほどの災害が頻発化、激甚化しています。四万十川をはじめ、後川、中筋川と3本の一級河川を有する本市においては、大変憂慮しなければならない事態となってきました。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されましたが、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに温室効果ガスの実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

四万十市においても、望ましい将来像として掲げる「人が輝き 夢が生まれる 悠久と躍動のまち」の実現のため、また、私たちの祖先から脈々と引き継がれる四万十川を代表する豊かな自然を守り、未来の世代に繋いでいくため、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、その実現に向け、自然再生エネルギーの活用や森林の整備など「脱炭素」への取り組みを推進していくことをここに宣言します。



令和3年3月22日

四万十市長

中平正宏

川とともに生きるまち

shimanto



四万十市

